

口腔

扁平苔癬の話

鎌倉市歯科医師会

小林晋一郎



扁平苔癬は、皮膚・粘膜に生じる、角化異常を伴う炎症性病変で、口の中にできたものを、口腔扁平苔癬と呼びます。聞き慣れない名前ですが、必ずしも稀な疾患ではありません。口腔粘膜の表面に白い部分が生じ、触れると痛みを感じたり、醤油などの調味料やカレーなどの刺激物がしみます。痛みが強い時は、食事がうまく取れない（摂食障害）などの症状が出ることもあります。

特徴

典型的な肉眼的所見としては、びらん（潰瘍より浅い粘膜の实质欠損）を生じた赤い部分に、白い網目状

鑑別

口腔扁平苔癬とよく似た所見を示す疾患に、白板症があります。粘膜表面の角化層が剥がれ落ちず、積み重なったもので、文字通り白い板状の盛り上がりとして見ら

原因と治療

原因としては、ストレス、遺伝的なもの、薬剤、自己免疫疾患などが考えられています。原因は不明とされています。一部、歯科用金属によるアレルギーとの説もあり、これが疑われる場合は、パッチテストで原因となる金属を調べます。

治療法としては、副腎皮質ホルモンや抗生物質を含む軟膏を患部に塗布したり、ビタミンA剤の内服などが効果的といわれています。金属アレルギーが疑われる場合は、歯に充填された金属などを除去します。口腔扁平苔癬は、悪性ではないものの、完治が難しく、長期間にわたることも多い厄介な疾患です。自覚症状が無い場合、経過観察にとどめることも珍しくありません。

もし何か思い当たることがあれば、どうぞかかりつけの歯科医院でご相談ください。必要があれば、専門の口腔外科を紹介することもあります。

(こばやし歯科)